2 月 4 日のメッセージ

聖書：ヨハネによる福音書　5：1－18

「良くなりたいか」

ランプをこすると精霊ジーニーが登場して、「ご主人さま、なんなりとお申し付け下さい」と言うのは、ディズニー映画でもお馴染みの『アラジンと魔法のランプ』の世界。3 つの願いを叶えてくれると言いますが、さて、皆さんは何を願うでしょうか。

すぐに思いつかなくて「ちょっと待って」と言ったら、1 つ目の願いとして聞かれてしまったなどと言う笑い話もありますが……。3 つに絞るのはなかなか難しいかもしれません。

では、3 つと言わずたくさん願ってもかまわないと言われたら、私たちは願い事を素直に明かせるでしょうか。イエスは、「求めなさい。そうすれば、与えられる。」(マタイによる福音書 7:7)と約束されています。

この約束を知っているはずの私たちの祈りには、どれほど多くの願いが含まれているでしょうか。「謙譲の美徳」というのがあるからなのか、はっきり願いを口にする人はあまり多くないような気がします。

一方、長らく関わっているタイの山地民族、カレン族の祈りは（良い意味で）もっと露骨でストレートです。「あれがしたい。これがほしい。こうなってほしい」と素直に、そしてたくさん祈っています。少しうらやましく思うほどです。

もしかすると、私たちが素直に願うことが難しいのは、「祈っても叶わないかもしれない」という思いが強いからかもしれません(「どうしたら、その方を見いだせるのか。おられるところに行けるのか。」ヨブ記 23:3)。

何度も期待して、その度に裏切られたと思い、神に願うことを諦めてきたのかもしれません(「わたしは黙し続けて／絶え間ない呻きに骨まで朽ち果てました。」詩編 32:3)。

38 年間、病気で苦しんでいる人ならば、なおさらそうだったのではないでしょうか(「さて、そこに三十八年も病気で苦しんでいる人がいた。」ヨハネによる福音書 5:5)。ベトザタの池を前にして彼は何度も、他の人が先に池に入り、癒される現場を目の当たりにしてきたことでしょう。今度こそ、いやその次こそと願いながらも実現しない現実を前に、彼に残されているのは絶望だけでした。

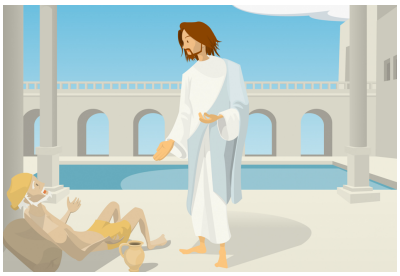
そのような彼にイエスは問われます。

「良くなりたいか。」(ヨハネによる福音書 5:6)

これはもちろん、「病気が癒されてほしいか」と聞いているのですが、それ以上に「諦めずにもっと願いなさい。もっと神に祈りなさい」との励ましの言葉でした(「しかし、神はわたしの歩む道を／知っておられるはずだ。わたしを試してくだされば／金のようであることが分かるはずだ。」ヨブ記 23:10)。

必要なときに必要なだけ与えられる神は生きておられる。だから、諦めずに祈り願いなさい、と(「あなたがたの中で知恵の欠けている人がいれば、だれにでも惜しみなくとがめだてしないでお与えになる神に願いなさい。そうすれば、与えられます。」ヤコブの手紙 1:5)。

願い通りに実現することは多くないかもしれません。ここでも「池に入れてほしい」という彼の願いは、直接的には叶えられていません。しかし、それ以上の恵みが実現しているのです(「すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。その日は安息日であった。」ヨハネによる福音書 5:9)。



辺野古の問題然り、ウクライナにおける戦争、ガザにおける虐殺など、現実は私たちの希望を打ち砕かんとするものばかりです。諦めそうになる私たちにイエスは今、「良くなりたいか」と問うておられます。

私たち自身の、私たちの社会の、そして、私たちの世界のために祈り、願い続けるようにと呼びかけられているのです。